

音楽の力でバリアフリー

益城病院夏祭りでアントニオバンド

8月19日、益城病院の夏祭りで「アントニオバンド」が結成5年目の腕を披露しました。

障がい者の生活や活動をサポートする地域活動支援センター「アントニオ」で、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽の力で心のバリアフリーを目指すバンドのメンバーは7人。上益城郡内の高齢者施設を慰問したり、イベントに出演したりと幅広く活躍しています。

「音楽を通して元気を届けたい。あきらめてはいけない！ という強い気持ちを伝えたい」と、リーダーの吉田良子さん。詰め掛けた観客は、「心に響く演奏だった。とても感動した」とアントニオバンドの演奏に魅せられた様子でした。



大勢の観客を前に熱のこもったバンド演奏を披露するアントニオバンド



食品表示を見入る一日食品衛生監視員のみなさん

食の安全安心を守る

一日食品衛生監視員

8月4日、益城町健康を守る婦人会(富田セツコ会長)の6人が、消費者代表として、御船保健所長から一日食品衛生監視員の委嘱を受け、食品表示の注意事項などの講習を受けた後、阿蘇くまもと空港の土産売り場で食品表示の監視活動を行いました。

「くまもと食の安全安心のための基本方針」に基づき、御船保健所と上益城地区食品衛生協会が連携して行ったこの活動。監視の仕事を終え富田会長は、「さすが、熊本の顔である空港。管理が行き届き表示もきちんとされていた。以前から監視活動は行っていたが、今日は改めて勉強させられた」と感想を述べていました。

8月4日、町立第4保育所(木山、永田親子所長)で、年長組の園児たち25人と、木山老人クラブ(梅田隆義会長)の8人が一緒に竹の水でつぼうを作り、水遊びを楽しみました。これは、竹などを使った昔ながらの遊びを今の子どもたちに知って楽しんでもらいたいと、同クラブが毎年行っているものです。この日は35度を超す猛暑日。園児たちは、

用意された竹に真剣な表情で布を糸で巻きつけて水でつぼうを作り上げると、もう待ちきれないとばかりに園庭のプールへ走って移動。最初は竹の水でつぼうに慣れず、その扱いに戸惑っていた子どもたちも、会員の皆さんの優しい手ほどきを受けるとすぐに上手に遠くまで水を飛ばせるようになり、大歓声を上げながら楽しいひと時を過ごしました。



園児たちは竹の水でつぼうを手に笑顔いっぱい

暑い夏でも大はしやぎ

木山老人クラブと第4保育所園児が交流